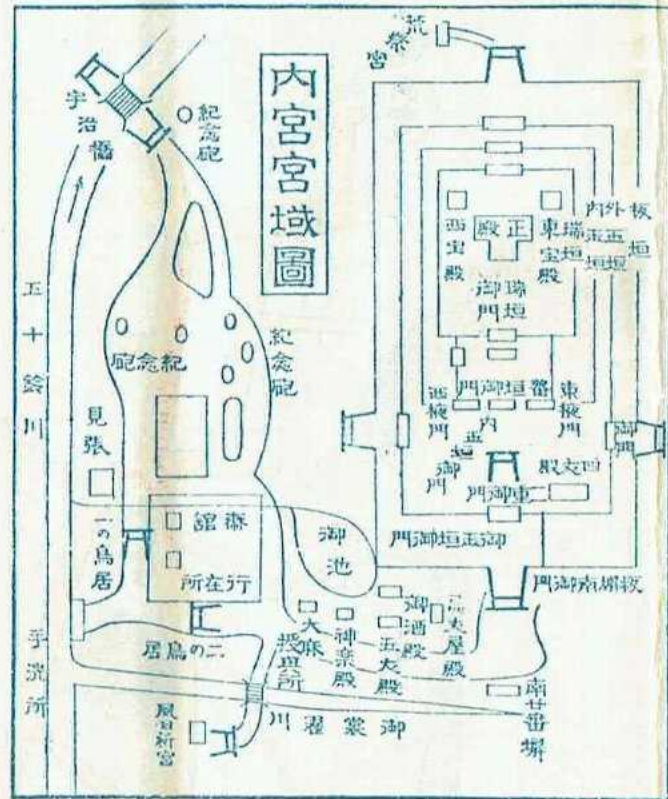


神都概説

一、内宮 (内宮行電車終点)
 申すも畏きことながら、宇治の五十鈴の川上に御鎮座まします、天照皇大神宮一般に内宮と申し奉るは、遠き神代の昔に於きまして、天孫尊始めて此國土に天降り給ふに當り、天祖天照皇大神は、八坂瓊の勾玉、八咫の鏡、叢雲の劔三つの神器を授け給ひ、殊に御鏡に就ては、此鏡は専ら吾御魂として伊都伎奉れ、寶祚の隆ならんこと天壤と共に窮りなかるへしと勅らせ給ひました、此鏡を大御神靈として奉祀せられて居るのであります、宇治橋は全長五十一間幅四間の總檜造で両端の太鳥居は、御遷宮後舊御神殿の御棟持木を使用されます、橋を渡れば戦勝記念奉獻の巨砲あり、表見張を右に見て小橋を渡れば齋館、一の鳥居行在所、五十鈴川の手渡場があり次に二の鳥居、大麻授與所、神樂殿更に進みて御正殿に達します、正殿の北方に皇大神の荒御魂を祀る荒祭宮、大麻授與所前の橋を渡れば級長津彦命を祀る風日祈宮があります。

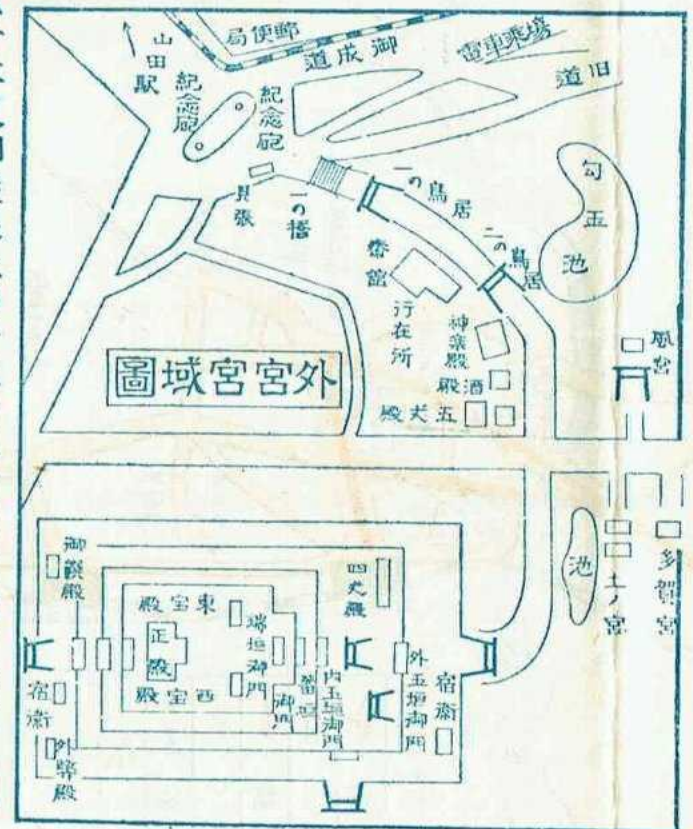


御参拜者の御希望に依り御神樂及び御祈禱を御奉奠することが出来ます

御神樂料	金
特別大御神樂	壹百圓
特別大御神樂	七拾五圓
大御神樂	五拾圓
大御神樂	參拾圓
小御神樂	拾五圓
御祈禱料	七圓
特別一等	五圓
特別二等	四圓
特別三等	三圓
特別四等	二圓
特別五等	一圓

一、外宮 (山田驛より三丁徒歩)

山田に御鎮座の、豊受大神宮、一般に外宮と申し奉るは、五穀創造の大神にして、皇大神深く其の神徳を嘉し給ひ、御自分の御靈に添へて、大神の御靈をも、天孫尊に授け給ふたのであります、故に歴朝皇大神と同じく大切に伊都伎まつられ今日にも皇室の御取扱は、總て両宮御同格であります。神苑に入れば、大正天皇の御手植の松戦役記念礎あり表見張を右に見て小橋を渡れば右に齋館、清盛楠、左に御手洗場があります。次に一の鳥居を過れば行在所、二の鳥居、神樂殿、大麻授與所を経て御正殿に達す御正殿手前の参道を南に進めば荒御魂を祀る多賀宮、大土乃祖神、を祀る土の宮、級長津彦命を祀る風宮があります。御正殿は萱葺の神明造りで外宮は檜木九本内宮は十本又御屋根上の千木は外宮は尖端を垂直に削ぎ内宮は水平であります。



一、倭姫宮 (電車倉田山途中下車右(二丁))

畏くも垂仁天皇の第二皇女に座し神勅を奉し、大宮地を求めて五十余年の間諸國を遍歴し給ひ遂に今の五十鈴の川上に萬代鎮座の大業を創成あらせ給ふた大偉勳の女神にましまし、神都としては、實に創造の産土神に渡らせられます、學生の方々は別けて當宮の参拜をお忘れなきよう願ひます。

先づ手洗場の淨水に、心身を清め、神代からの大神の大前に拜跪して祈誓を籠めました時、何人も云ひ知れぬ一大靈感に打たる、でありましよう、「何事のお在しますか知らねども忝けなさに涙こぼる、」天壤と共に窮りなしとの神勅其儘に、皇統連綿として千代八千代、寶祚彌榮に榮え給ふ、眞に萬邦冠絶の我國体の下に三千年來培はれ育かれた、大和民族八千萬同胞の心の奥底には、傳統的に我國民精神が深く植付けられて居ります偶々森嚴清淨の靈域に入り、建國の源泉國体の眞髓に在します、絶大無限の大御神靈に咫尺し奉りて、覺えず、感激の涙となるは洵に其の所であります。

一、神都記念館 (山田驛より三丁外宮前より四丁電車途中下車)

神都公會堂に隣接せる二棟の銅御殿は昭和五年春開催致しました御遷宮奉祝神都博覽會の一施設で當時隨一の呼物となり偏く江湖の賞讃を博しました御物館、歴史館を其儘存置したものであつて御物館は昭和三年御大禮造營物の一つであつた京都御所内神樂舎を御下賜により移轉修築したものでありまして博覽會中は大禮御使用の御物を拜借奉展し尙ほ帝國勳章全部を展覧したが博覽會終了と共に之を返上し更に神宮司廳寄贈の御遷宮模型を陳列し引く觀覽せしめつゝあります。

歴史館は我國建國以來の史蹟十八種を選び油繪を背景とし活人形を配置して電氣照明により精巧なパノラマを展開せるもので史蹟は文學博士上田萬年氏神宮皇學館長森田實氏の選定せられたもので又構想圖案は久保田金徳畫伯、油繪は茂木習古氏、人形は庄田七郎兵衛氏、電氣照明は遠山静雄氏等東都斯界の權威者が畢生の心血を注がれました一大傑作であります、開館以來、高松宮、祭主宮、東伏見宮、閑院若宮、賀陽宮各殿下の御台覽を賜はり毎々褒詞を忝ふし、大官貴紳亦必ず駕を枉けて觀賞を博して居りますことは神都の誇りとする所であります。

一、徴古館、農業館 (倭姫宮に同じ)

神宮司廳の所管であつて神宮の御物、を始め圖書、器具、寶物、歴史上の参考品を分類陳列してあります、農業館は農林、漁、牧、蠶等の模型標本、統計等を陳列して參觀者の智識啓發につとめて居ります。

一、商品陳列所 (山田驛前通り)

此處は縣下主要物産を網羅し旅客に本縣の物産を紹介する外即賣所の設けががあります。

一、如雪園 (電車中之切下車)

内宮前に至る迄の高台地で園内には休憩所の設備が有りまして参拜者の爲め湯茶の便宜を計り講習場の設けが有ります。

一、朝熊山 (楠部より登山電車に乗替)

度會志摩兩郡に跨る連峯、海拔千八百尺、山頂に特別保護建造物にして多く國寶を藏する名刹金剛寺あり、眺望の壯觀を以て世に聞ゆ、登山路楠部より七十二町朝熊より三十二町別に登山ケーブルカーあり、楠部電車乗降所にて乗替へ平坦線二哩六十鎖、ケーブル零哩七十三鎖にて山上に達します急勾配一・六分の一にして世界第二東洋第一の最急勾配と稱します。

一、参拜順路 山田驛に下車になれば驛前に電車、自動車がありまして一路内宮に至ることを得られますが先づ驛より三丁の外宮に詣られるのが普通であります、外宮、内宮と一と口に申しますが五十町の距離があつて其間電車、自動車又乗合馬車も有りますが時間がありませんらば舊道の古市間の山、又由緒深き神都の古蹟を巡つて伊勢情趣を味はることも一興かと存じますさて内宮を拜せば二見浦夫婦岩又は電車を楠部で乗りかへ朝熊山に大觀せらるゝかそは各人行程日時の長短によつて都合撰擇にお委せいたします。